

「ご縁」

渋谷 千智

縁ということばを辞書で調べてみると、一般的には「ゆかり」、「人と人とのつづきあい」、「関係」などとあります。日常よく「ご縁ですね」とはいうものの、悪い時にはあまり使わないような気がします。

ところが真宗のお話を聞いたり、仏教書を読んでいると、「縁」ということばには無限で深い意味があるように感じます。

実は私の家族は8年程前に娘を亡くしました。当時19歳でした。私たち家族は突然の出来事で、「どうして私たちが、私が…」と深い悲しみに明け暮れるばかりで、いろいろな方から大切なおことばをいただいていたのに、その時は全く受け止められませんでした。

そんなある日、私はある講座で先生のお話を聞かせていただいて、難しいことはわかりませんでしたが、わけもなく涙がでてきました。その先生との出遇いが縁となって、それ以来ひたすら聴聞させていただくようになりました。

娘の死も、先生との出遇いも、今私がこうしてられるのも、生まれる前から一つひとつ、良いこと、悪いこと、悲しいこと、あらゆることが縁となって、今を成り立たせる条件になっていることに気が付きます。仏さまはきっと私に受け入れられない事実を事実として受け取らねばならないという願いをかけてくださっているのかもしれませんが。そんなことを思いますと、今までとは違ったものの見方ができたり、自分というものは縁に気付くことによって変わっていくものであるような気がします。

「ご縁、ご縁、みなご縁、こまったこともみなご縁」という木村無相さんのことばが胸にしみる今日この頃です。

ありがとうございました。